

A photograph of a grassy hill with a stone path leading to a person standing at the top under a cloudy sky. The person is wearing a white shirt and red pants. The sky is overcast with grey clouds. In the background, some buildings and utility poles are visible on the left side.

古墳の名前 由来 調査

茨城市立金岡小学校  
5年 田中 颯馬



## <研究のきっかけ>

ぼくは今年の7月23日に、群馬県立歴史博物館の特別館長・右島先生と古墳を歩くこどもセミナーに参加しました。セミナーでは、前橋市の総社古墳群の宝塔山古墳と蛇穴山古墳へ行きました。宝塔山古墳で先生が、宝塔山古墳の名前の由来を話してくれました。ぼくは、宝塔山古墳以外の古墳の名前には、どんな由来があるのか疑問に思ったので、この自由研究で調べることにしました。

## <調べ方>

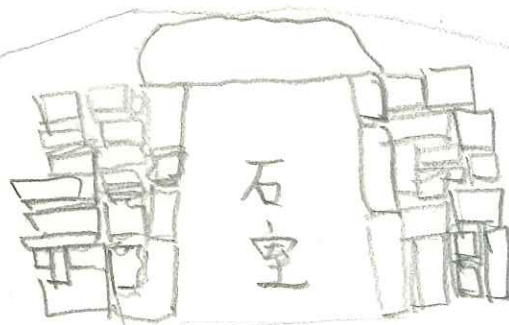
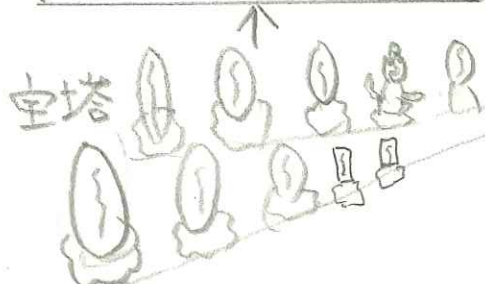
- ① インターネット・本で、下調べをする。
- ② 実際に行ける古墳へは行き、由来とか、たものを調べてくる。

## <古墳の名前の由来>

### ① 宝塔山古墳 (前橋市総社町総社)



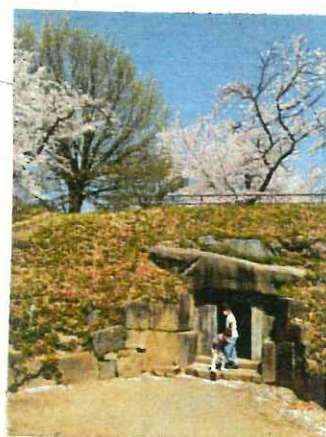
宝塔山古墳は方墳です。古墳の名前の由来は、墳丘に宝塔 (お坊さんの墓) があるからです。宝塔は、30基くらいありました。宝塔は楕円形のものが多くありましたが、中には観音像の形のものもありました。



## ② 蛇穴山古墳 (前橋市総社町総社)



蛇穴山古墳は方墳です。古墳の名前の由来は、一番奥のかべに蛇の絵がほられているからです。この絵は江戸時代のもので、石室を弁天様の祠として利用した際、古代インドのサンスクリット文字で弁天のイニシャルがほられたそうです。その文字が蛇の絵に見えることから、名前も蛇穴山古墳になったそうです。



春は桜もきれいです。

## ③ 遠見山古墳 (前橋市総社町総社給人城川)



遠見山古墳は前方後円墳です。古墳の名前の由来は、1604年に総社城が築城された際、遠見のためにやぐらが設置されたからだそうです。現地の説明板やパンフレットや本にも、前方・後円部のどちら

ここにやぐらがあったのでは?



にあったのかは書いてありませんでしたが後円部の方が丸

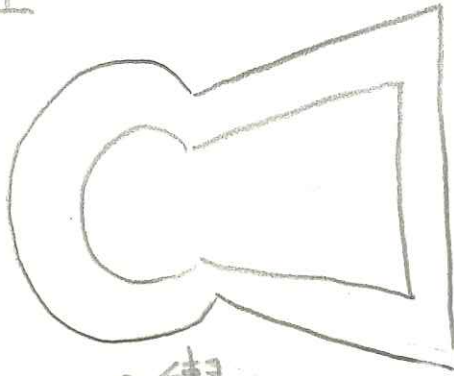
くて建てやすそうなので絵は後円部にやぐらを書きました。



# ④ 七輿山古墳 (藤岡市上落合)



七輿山古墳は前方後円墳です。古墳の名前の由来は、1300年ほど前の伝説の話がもとになっていて、藤岡では何種類かの伝説が伝わっています。吉井町の辺りを治めていた豪族・羊太夫は、神通力を持った足の速い家来に馬をひかせ、新鮮なセリを都にとどけていました。しかし家来がねている時、羊太夫がついていた羽根を取ってしまいます。家来はそのせいで足がおそくなってしまい、都に行けなくなってしまいます。そして、無叛を起したと思われ、



七つの輿



れ、征伐の軍をさしむけられてしまいます。羊太夫の女房7人は、こっそり城をぬけ出して落ち合いましたが、全員自害してしまいます。それを気の毒がったその地の村人たちが大きな塚を造り、7人を7つの輿に入れてほうむりました。そして、塚の上に植えた松が、とても不思議なことに7本の枝をのばしました。村人たちは、その松のことを「七輿の松」とよんだそうです。この話は伝説ですが、この話が由来して、古墳名も「七輿山古墳」になりました。

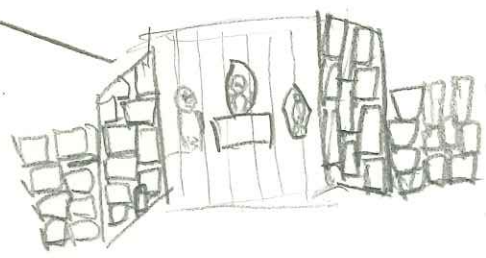


⑤ 虚空蔵塚古墳 (渋川市北原)



虚空蔵塚古墳は円墳です。古墳の名前の由来は、石室内のお地蔵さまです。真ん中の台座にあるのが、虚空蔵菩薩のお地蔵様だそうです。この古墳の名前は、虚空蔵菩薩から「虚空蔵」をとってつけたものだそうです。お地蔵さまは、数えて5つありました。

石室の中  
にはお地蔵  
さまが



アルミ柵がありましたか  
のぞき込めば十分に見る  
ことができました。

⑥ 軍配山古墳 (玉村町角泷)



軍配山古墳は円墳です。古墳の名前の由来は、戦国時代、1582年の神流川の戦いの際、織田信長の家来の滝川一益がこの古墳の上で軍配をふる、たからだそうです。実際に墳丘へ登ると、とても眺めがよかったです。ここからなら、きっと戦いの様子がよく見えたのだろうと思いました。昔は、平安時代に清和天皇が御幣を立てたという伝承から、御幣山古墳ともよばれていました。



に清和天皇が御幣を立てたという伝承から、御幣山古墳ともよばれていました。



他にもまだあります。

綿貫古墳群 → 後世になって後円部の頂上に  
不動山古墳 不動尊がまつられたからです。  
(高崎市綿貫町金堀)

太田天神山古墳 → 古墳のくびれ部に天満宮の  
(太田市内ヶ島町) 祠があるからです。

山王金冠塚古墳 → 金銅製の冠が見つかったため  
(前橋市山王町) です。山王は地名です。

浅間山古墳 → かつて古墳の上に富士山の神  
(高崎市倉賀野町) をまつる富士浅間神社があ  
たからです。

諏訪古墳 → 元々あった古墳を利用して、古墳  
(藤岡市藤岡) の上に諏訪神社を建てたか  
らです。

お富士山古墳 → 後円部に富士神社という  
(伊勢崎市安堀町) 神社があるからです。

そのほかは、調べてみると大体が地名が使われることが  
分かりました。例えば...

築瀬二子塚古墳(安中市築瀬)、南下古墳群(吉岡町  
南下)、高塚古墳(榛東村新井字高塚)、奈良古墳群  
(沼田市奈良町) などなどです。



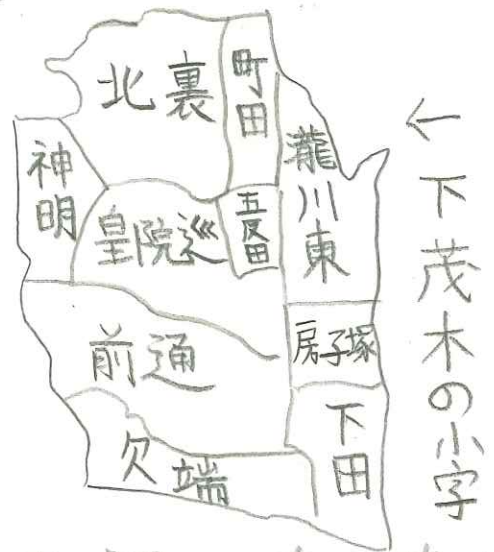
しかし、地名がっているわけでもなく、本やインターネットで調べても由来が分からない古墳がありました。それは、梨ノ木山古墳です。なので、梨ノ木山古墳の名前の由来を考えてみました。

仮説1  
昔の地名だった  
のではないかと?

仮説2  
梨の木があった  
のではないかと?

仮説1について調べたこと

前に図書館で「群馬県地名大辞典」という本を目にしたことがあったので、図書館へ調べに行きました。しかし、な行を見ても、「梨ノ木」はありませんでした。近くに「群馬県の地名」という本もあったので見てみましたがそれにもありませんでした。家にある資料で、下茂木の小字を見ましたが、見当らなかつたので古墳に地名が由来しているわけではなさそうです。



仮説2について調べたこと

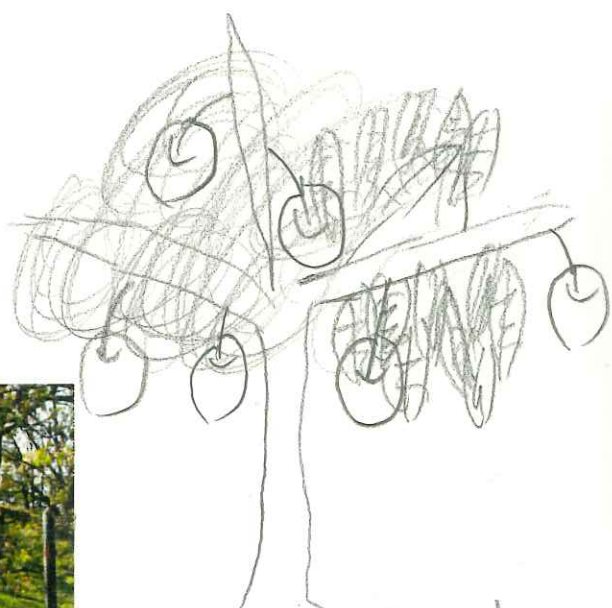
本にはなかつたので、インターネットで調べました。玉村町で梨が栽培されていたのか調べると、江戸時代、玉村町五畷の伊与野清次郎という人が、梨木の伝という梨の栽培書をかいていたことが分かりました。梨ノ木山古墳があるのも、五畷からほど近い下茂木なので、その辺り一帯で梨の栽培をしていたのではないかと考えました。梨は、弥生時代に今の中国や韓国から持ち込まれました。

日本の在来梨は群馬発祥でそこから新潟→千葉→神奈川→岡山...と全国へ広まていきました。群馬県が東国文化の中心だったから、いち早く梨も伝来してきたのではないかと思います。静岡県登呂遺跡でも梨の種が見つかっているそうなので、梨は古代から日本にあったことが分かります。「梨木の伝」を伊与野清次郎から譲り受けた関口長左衛門は、江戸時代後期の1808年生まれで、1830年に「梨木の伝」をもとに梨の栽培を始めたそうです。亡くなったのが1892年なので、梨ノ木山古墳の名前の由来がこのことに由来しているのなら、江戸末期から明治時代の頃に名前が付いたのではないかと考えました。

ということで...

梨の木が古墳の名前の由来だと思えます

梨ノ木山古墳



近くに梨の木があたのては?





<おわりに>

ぼくが古墳を好きになったのは、1年生の8月、夏休みに県立歴史博物館で綿貫観音山古墳のレプリカを見たのが始まりでした。すぐに実物を見たくなくて、実際に古墳へ行きました。古墳を歩いたり、石室は時間がおそくて入れなかつたけれど、のぞいてみました。「古墳はすごくて面白いなあ」と思いました。

(表紙の写真はその時のものです)

今回調べた梨ノ木山古墳のように、由来のよく分からない古墳も数多くあると思うので、詳しく調べていきたいです。

ぼくの家は、甲を着た古墳人で有名な金井東裏遺跡から直線で200mくらいの所にあつて、学校へ行くとき、毎日眺めながら通っています。つい最近も、新しい古墳が見つかりました。そんな遺跡の近くなので、もしかしたら新たな発見があるかもしれないと思つて、家の庭に穴をほっていますが、残念ながらまだなにも見つからなかつています。ぼくには考古学者になりたいという夢があります。その夢に向かつて、もっと古墳や遺跡について知つて、もっと調べていきたいです。

2年  
前



←現在



